令和3年度　第4回　関西支部研修会

インプラントのトラブルシューディングを考察する

日時：令和4年3月13日(日)
場所：アットビジネスセンターPREMIUM大阪駅前
講師：寺本 昌司先生

上原 久晴(京都府)

令和4年3月13日大阪梅田にて、第4回関西支部研修会が開催されました。

今回もハイブリッドでの開催となり、関西以外からも多数聴講頂けました。

大阪市開業の寺本 昌司先生をお招きし「インプラントのトラブルシューディングを考察する」を御講演頂き、欠損補綴の1オプションとしての有効性が広く認知されたインプラント治療だが、年々治療を受けた患者が増加する半面、インプラント治療におけるトラブルも頻発するようになり、実際の症例をもとに原因とその対処法について詳しく解説頂きました。

契約には、仕事の完成を約束する「請負契約」と、仕事を行う事を約束する「委任契約」があり、元来医療行為は準委任契約であるが、判例を見ていると自費治療は年々請負契約化してきている。そこで問われるのは「説明義務違反」「事前の検査義務違反」「手術手技義務違反」「術後管理の是非」「因果関係」で、そもそも安心・安全な治療など無いため、起こり得る症状は説明をする基本を徹底する(2020治療指針からの同意書を参考に)。術前・術中・術後のX-P、CT、口腔内写真等の記録は可能な限り残し、処置の妥当性を証明できるようにする。また合併症ではなく併発症と表現した方がいい。

インプラント治療におけるトラブルの原因は、主にオーバーローディング・感染・インプラントポジションであり、すぐに手をつけずレスキューを引き受けるかは以下の条件を充分に検討してから決断する。

① 患者が精神的に健全な状態である
② 自身にとってレスキュー可能である
③ インプラントシステムが判別できる
④ 根本的・潜在的なリスクを考慮する
⑤ 患者の年齢・全身状態・コンプライアンス

自身に達成可能で、よりシンプルかつ予知性が高い処置を心がけ、患者に治療法をおしつけるのではなく、患者に適した治療法を選択する。

インプラントポジションにおいては、近年デジタル技術の進歩が目覚ましくガイデッドサージェリーを行う事で、治療計画通りのポジションに埋入できるとうたわれているが、実際の臨床では残存歯の動揺や、粘膜の被圧変位量の程度でガイド自体が適性位置に配置できない等、様々な要素で治療計画との偏位が発生する。このような事態に対応できるように、ガイド手術やフラップレス手術だけではなく、デジタルが無かった時代の先生方行っていたような総合的な手術スキルを身に付けるべきである。

そして埋入深度の考え方や、ストレート・テーパー

ドインプラントの利点・欠点、それぞれのメーカーのドリルの特性を理解し使い分ける必要性を解説いただき、もし適正ポジションに埋入できなければ撤退する勇気も必要であるのと、代わりに次に有利になる様にしておくよう心掛ける事が重要である。

患者の状態を歯科医師・衛生士・技工士がどの様に把握し、共有していくのか、デジタルの情報をやり取りするだけでは伝わらない事を、寺本デンタルクリニックで実践されている方法を詳しく解説頂いた。